

I あいさつ

2021 年度を終えて

新型コロナウイルスで、日常生活も仕事の内容も人との関わり方も大きな変化を強いられました。第6波を越えたのも束の間、すでに第7波の不安もありますが、これらはとても小さいことに思えるほど、戦争によって大変辛い経験をされている人々の存在を忘れてはならない、と平和に感謝する日々です。

多くの困難が日本のみならず世界中で存在するなか、無事に 2021 年度の事業報告が出来ることは大きな安堵であります。

感染症の重症化リスクがある障害者を対象とする我々としては、自らの感染予防管理はもとより、期せずして障害者に感染を拡げてしまうリスクが何よりも怖いと思います。そのようななかで、代替の介助犬ペア4組の訓練を、愛知、神奈川、宮城、大阪で無事に終了させ、新たなペアの誕生を迎えることが出来たことは大変大きな成果でした。在宅合同訓練のために、各地で孤独に感染蔓延のプレッシャーと闘いながら成果を上げた職員の頑張りを称賛したいと思います。

昨今力を入れてきたDI活動は、病院では長期中断の危惧もありましたが、病院関係者のご努力により、行う方法が確立した1年となりました。昨年度より取り組んでいる付添犬活動も拡がりを見せ、名古屋市児相との提携が形になりました。With You プロジェクトは、テレビの全国放送で取り上げられたことで大きな反響を呼び、益々ニーズが拡がることを感じております。

募金活動、出張イベント、多くの方の視察、月に1度のホールがいっぱいになる見学会、7,000人を超える人々が集う介助犬フェスタ等々、いつ再開できるか分からない活動は数多くありますが、この3年の間に、打ち合わせや視察、見学、講演やセミナー、相談会もウェブで行うことが日常となり、発信力が向上したことは我々にとって大きなプラスになりました。

出来なくなることがあっても出来ることがある、むしろ形や方法を変えることで出来るようになったことも多くあり、コロナ禍での成果として事業報告の中でお伝えしたいと思います。身体障害者補助犬法制定から20年の節目となる2022年度は、更なる発信と飛躍を遂げる1年になるべく邁進してまいります。

理事長 伊藤 利之

Ⅱ. 令和3年度 事業報告

1. 介助犬訓練事業

(1) 肢体不自由者に対する介助犬貸与

介助犬総合訓練センターにて、4組の合同訓練を行い、指定法人より認定された。

*犬種：LRはラブラドル・レトリバー

	介助犬使用者				介助犬		合同訓練期間 (実訓練日数)	認定日 (指定法人)
	都道府県	性別	年齢 (認定時)	障がい名	犬名	性別 (犬種)		
継続	愛知	男	48歳	脊髄損傷	グラディス	雌 (MIX)	3月28日～5月24日 (57日間)	2021年5月25日 (名古屋リハ)
継続	神奈川	男	57歳	頸髄損傷	ロイ	雄 (LR)	4月20日～7月18日 (68日間)	2021年7月19日 (横浜リハ)
継続	大阪	女	51歳	重症筋無力症、 スティッフパーソン 症候群	モーリス	雄 (LR)	12月11日～2月21日 (66日間)	2022年2月22日 (名古屋リハ)
継続	宮城	男	50歳	複合性局所疼痛 症候群	オン	雄 (LR)	12月13日～2月21日 (56日間)	2022年2月22日 (名古屋リハ)

(2) 犬の飼育及び訓練

① 候補犬の訓練

候補犬25頭（新規入所犬10頭）を確保し、評価及び訓練を行った。

② パピーに対する訓練及びパピーホームボランティアに対して飼育指導オンラインでのパピー来訪デイや個別レッスンを実施し、パピーホームへの飼育指導を行った。

(3) 繁殖

① 4回の出産を行い、19頭のパピーを確保した。

② 8頭の繁殖犬（雌5頭、雄3頭）を確保した。（新規0頭、引退3頭）

③ 犬山動物総合医療センターの協力のもと、人工授精手術を3回行った。

④ 岐阜大学へ凍結精液の作成を相談の上依頼した。

(4) 介助犬使用者に対する継続指導

① 継続指導

新規認定者を除く全使用者16名に対し、「アフターチェック表」、「介助犬健康診断書」を送付し、書面による現状把握を行ったのち、訪問により実際の生活状況の確認を行った。訪問での継続指導の他に、電話・メール・オンラインでの継続指導を実施した。

(訪問指導：28回、電話：70回、メール：103回、オンライン：4回)

② 利用者交流会

10月31日(日)にオンラインにて開催した。参加使用者は12名であった。

(5) 介助犬使用者に対する就労・継続支援

使用者の就労継続に関して相談支援を行った。

2. 普及啓発・広報活動

(1) 普及啓発イベント・講演会の開催

① 「介助犬フェスタ 2021」を開催した。

- ・身体障害者補助犬法の周知、介助犬への認知度向上を目的とし、「見る、知る、感じる、そして楽しむ」をコンセプトに初めてのYouTube生配信で開催。関連動画29本の投稿を通して、13,000を超える動画再生があった。

(2021年6月9日時点)

- ・オンラインの介助犬フェスタ内で感謝の集いを開催し、広く介助犬ペアの誕生、およびDI犬とハンドラー認定について報告した。

② 恒例イベントの実施

新型コロナウイルスの影響で多くのイベントや講演会等の延期・中止となるが、オンラインでの講演や見学会開催への取り組みを行った。

実施日	名称	回数	参加者数	開催場所
11月13日(土) 12月12日(日)	一般見学会(来場型) ※ハイブリッド開催を含む	2	72名	センター
7月25日(日) 8月13日(金) 1月23日(日) 2月27日(日)	一般見学会 (オンライン開催)	8	86組	センター
5月1日(土) 6月11日(金) 9月23日(木祝) 3月18日(金)	一般見学会(動画配信)	4	視聴回数 1,333回	-

③ 肢体不自由者等への啓発を実施した。

名称	日程	参加方法(開催場所)
バリアフリー2021	2021年8月25日(水) ~27日(金)	オンライン出展 (インテックス大阪)
ウェルフェア2021	2021年5月20日(木) ~22日(土)	出展なし

ヨコハマヒューマンテクノロジー展 2021	2021年11月26日(金)～	オンライン出展 (オンライン開催)
国際福祉機器展 2021	2021年11月10日(水) ～12日(金)	企業ブース出展 (東京ビッグサイト)

④ はたらくワンワンランド（JA共済連主催）を6件実施した。
（愛知県、高知県、静岡県、東京都、福島県、三重県）

⑤ イベント・講演・講義

・イベント・講演会：117件（内オンライン実施・オンデマンド：40件）

・講義：下記の大学や専門学校にて行った。（順不同）

〈大学〉

愛知医科大学、横浜市立大学、帝京科学大学、日本福祉大学、藤田医科大学、
愛知県立芸術大学、神奈川県立保健福祉大学、名古屋経営短期大学、
ハワイ大学、ヤマザキ動物看護大学、大阪保健医療大学

〈専門学校〉

専門学校愛知保健看護大学校、カコトリミングスクール、
ヤマザキ動物専門学校、神戸動植物環境専門学校、
専門学校ちば愛犬動物フラワー学園、東京YMCA医療福祉専門学校、
東海医療科学専門学校

・訓練センター視察：6件

⑥ 企業タイアップ大型企画の実施

・読売巨人軍および菅野智之投手（介助犬サポート大使）とのタイアップを
継続し、東京ドームへの出展、チャリティコラボ商品の企画・販売を行っ
た。

出展回数：30回 ※内ジャイアンツ球場出展1回

チャリティコラボ商品：計5点

（累計販売数：5,293枚、累計販売金額：18,154,468円）

・一般社団法人 日本自動車連盟（JAF）と共に介助犬育成支援のための
クラウドファンディングを実施し、10,230,000円の支援を受けた。

〈他企業との提携〉

・株式会社モンベル：サポーターカード

・タリーズコーヒージャパン株式会社：店内補助犬受入動画作成（来年度から配信予定）

・イオンペット株式会社：絆キャンペーン募金

⑦ 募金活動の実施

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から行わなかった。

(2) PR 犬の育成・訓練の実施

介助犬啓発活動に参加する PR 犬の作業力維持、並びに広報担当職員の技術向上のため、訓練部と連携し PR 犬 8 頭の育成・訓練を行った。また、訓練部と連携し、情報共有のために PR 犬ミーティングを実施した。

(3) メディア関連・対応等

① 取材対応実績

テレビ取材：15 件 新聞掲載：25 件 雑誌・広告等掲載：12 件
その他（WEB 記事等）：31 件

② プレスリリースサイト（PRTIMES）を通じて計 30 件のプレスリリースを実施し、計 766 件の記事転載がされた（広告換算額：8,580,274 円）。

③ メディアへの映像・写真素材の提供としてカメラマンによる介助作業の写真撮影を実施した。

(4) 会報誌・ホームページ、その他制作物を活用した広報展開

① 年間 4 回の会報誌作成・発信を行った。

② 公式 YouTube チャンネルへの動画掲載を本格化し、計 112 本の動画公開を行い、動画再生回数は 164,390 回に上った。

③ ホームページの全面リニューアルを行った。介助犬の他、DI 活動や WithYou プロジェクトなど「人と犬をつなぐ取り組み」についてもより情報が届きやすいよう導線を整えた。事業理念のページ、介助犬ペア写真ページの新設の他、法人・団体会員一覧についてはロゴ掲載の様式に変更した。

(5) SNS (Twitter・Facebook・Instagram・Youtube) の活用

新たな広報媒体として note の運営を開始した。

各 SNS のフォロワー、登録者数等は下記の通り

名称	登録者数等
Twitter	6,291 フォロワー
Facebook	10,575 フォロワー
Instagram	10,741 フォロワー
YouTube	2,500 登録
Note	14,183 View

(6) リハビリテーション専門関連学会、獣医療関連学会へのブース出展等

以下の学会にて、リハビリテーション専門職等への介助犬の理解を深めるためデモンストレーションの機会を得た。また、オンライン開催の特性を活かし、WEB 展示や PR 動画での参加の機会も得た。

【2021 年度学会一覧】

学会名	日程	開催地
全国脊髄損傷者連合会定時総会	2021年6月5日(土)	オンライン開催
一般社団法人 日本学校保健学会 第67回学術大会	2021年11月6日(土)～7日(日)	オンライン開催
第56回日本脊髄障害医学会	2021年11月18日(木) ～19日(金)	オンライン開催
第13回日本身体障害者補助犬学会	2021年11月21日(日) ～12月12日(日)	オンライン開催
第9回慢性期リハビリテーション 学会	2022年2月3日(木)～4日 (金)	オンライン開催

(7) ボランティア向け講習会・交流会等の実施（オンライン実施）

名称	日程	参加者数
ボランティア向け新型コロナウイルス講習会	2021年9月1日(水)	20名
CC犬ファミリー交流会	2021年12月5日(日)	45名

(8) 法人会員・支援企業との交流

2021年12月3日(金)に支援企業との交流を図るため「支援企業オンライン交流会」を実施した。参加企業は40社/52名であった。

3. 公益的な活動

- (1) DIを導入している以下の機関へのハンドラー指導を継続的に実施した。
機関名：聖マリアンナ医科大学病院、楓の丘こどもと女性のクリニック
- (2) 聖マリアンナ医科大学病院、箱根病院、野のすみれクリニック、千葉リハビリテーションセンター、名古屋市中央児童相談所一時保護所にてDI活動を実施した。
- (3) With Youプロジェクトとして、重度知的障害児のいる家庭、自閉症スペクトラムのいる児童/青年、視覚障害のある児童をお持ちの家族がいる家庭の計4家族へ譲渡した。
- (4) 専門機関からの相談への対応
 - ① 川崎市児童相談所の一時保護所でトライアルとしてDI活動を開始した。
 - ② NPO法人つなぐの要請により、付添犬派遣を行った。

4. 相談・指導助言

- (1) 介助犬希望者への相談支援
 - ① 介助犬に関心のある障害者を対象に、オンラインにて相談会を2回実施し、4名の参加があった。

下記は延べ人数

名称	日程	参加人数
オンライン相談会	2021年6月27日	3名
	2021年9月12日	1名

5. 調査研究

(1) 各学会への参加、演題登録

第13回日本身体障害者補助犬学会に役員1名、職員3名がシンポジウム、ショートレクチャー、一般演題の発表を行った。また職員17名が参加した。

【シンポジウム1】

「身体障害者補助犬の質の確保と受け入れを促進するための研究」報告
～2019 - 2022年度厚生労働行政推進調査事業～

- ・研究班についての経緯と展望紹介
専務理事 高柳友子

【シンポジウム2】

「コロナ禍での私たちの取り組み ～補助犬訓練事業者のホンネと挑戦～」
訓練センター長/訓練部長 水上 言

【ショートレクチャー】

- ・Dog Intervention～AAA/AAT、付添犬など～の取り組み
訓練センター長/訓練部長 水上 言

【演題発表】

- ・補助犬訓練事業経営者・医師としての新型コロナウイルス対応
～日本介助犬協会の感染拡大予防対策・対応の振り返り～
専務理事 高柳 友子
- ・新型コロナウイルス感染蔓延下でのオンライン化の取り組み
訓練部 櫻井 友衣
- ・介助犬募金箱設置店での補助犬受け入れ態勢に関する実態調査
管理部 石田 夢果

6. 補助犬関係団体協力

(1) 補助犬育成団体との連携

日本盲導犬協会、北海道盲導犬協会、関西盲導犬協会、九州盲導犬協会、東日本盲導犬協会等との繁殖、キャリアチェンジ犬の導入、研修先としての団体間の関係継続に努め、東日本盲導犬協会から成犬1頭を導入した。

(2) 諸外国の補助犬団体との連携強化

諸外国の補助犬団体と、介助犬の育成や繁殖事業に関する交流を実施した。

- ① ADI (Assistance Dogs International) の査察を受ける為の準備を実施し

た。

- ② Career Dogs Australia へ犬の導入についての相談を行い、パピー5頭を導入した。

7. 補助・助成等

(1) 介助犬貸与に関する補助

2021年度認定者在住の自治体より、介助犬貸与に対して下記の通り給付決定した。

都道府県名	補助金額
神奈川県	1,650,000円
愛知県	1,500,000円
宮城県	1,000,000円

(2) 啓発事業に関する補助

愛知県より、介助犬啓発事業の補助として123,000円が給付決定した。

(3) ふるさと応援活動支援事業としての補助

長久手市より、「介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～の介助犬育成啓発・公益的な事業」として8,719,000円が給付決定した。

(4) 助成団体・事業

名称	金額	事業内容
全国労働者共済生活協同組合連合会 教職員共済生活協同組合	350万円	「医療現場・司法の場へ犬の介入:Dog Intervention 事業」実施ならびに候補犬の導入
愛知県共同募金会	32万円	肢体不自由者の自立・社会参加・就労支援のための介助犬育成施設の犬舎整環境整備
中部ウォーカーソン	30万円	オンライン活動のための宣材素材撮影、動画撮影機材整備

(5) 団体・企業からの使途指定寄付 等

リコー社会貢献クラブ・FreeWill / デンソーはあとふる基金

(6) その他

イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン / Amazon 欲しいものリスト

8. 管理・運営

(1) 法令及びガイドラインに準拠した法人運営を実施した。

・理事会・評議員会の開催状況

定款に定める理事会・評議員会を以下の通り開催し、適正な運営に努めた。

*役員等体制（2022年3月31日現在）

理事・・・6名	監事・・・2名	評議員・・・10名
会長・・・1名	副会長・・・1名	顧問・・・1名

(2) 寄付収入および賛助会員数増加施策の検討・実施

安定した事業運営基盤の確立に向け、寄付収入および賛助会員数増加のためのファンドレイジング施策・コミュニケーション施策を実施した。

① 法人会員・法人支援者へのアプローチ回数を増やし、新規支援の獲得を目指した。

- ・2か月に1回程度メーリングリストを配信。(5月/7月/9月/11月/1月/3月)
- ・6/23 トピックスシェア会を実施した。
- ・12/3 オンライン交流会を実施した。
- ・7月令和2年度のあゆみ・役員改選のお知らせを送付した。
- ・11月ホームページへ法人・団体会員のロゴを掲載できる仕様に変更。2月のホームページ全面リニューアルでは更に法人・団体会員一覧が見やすいページ構成に導線を整えた。

② 会員数増加を目指し新規入会促進施策を検討、また既存会員の継続と会員とのコミュニケーション充実を図った。

- ・会報97号(4月)会報同封の払込用紙での会費領収書に口座振替の案内およびクレジットカードでの会費の案内を同封した。
- ・会報99号(10月)にて口座振替の案内を送付した。
- ・介助犬フェスタにて新規入会特典を掲げて入会を促した。(21名入会)
- ・個人会員証を長くお持ちいただけるカード様式にリニューアルした。
- ・高額寄付者にカレンダーやお礼状を送付した。

③ 収益事業を充実させ、社会福祉事業へ組み入れる寄付額の最大化を目指した。

- ・仕入れ先を商品別に検討し偏りの無いような配慮と同時に、目指したい原価率の商品化を実行した。
- ・コロナ感染の影響で直接販売の機会が減り計画より売上が減少したが、WEB販売での売上確保に努めた。
- ・昨年同様、社会福祉事業に税引き後利益の99%超の寄付を実行できるよう、資金の運用を行った。

④ イベント・街頭募金活動等の件数減少による収入減を補う策を実施した。

- ・キャッシュレス募金LINE Payを開始した。
- ・ホームページ寄付フォーム上で利用できるクレジットカードの追加審査申請を行った。

- ⑤ 寄付型ラッピング自動販売機の導入の促進。
特定非営利活動法人寄付型自動販売機普及協会への登録を行った。

- (3) 計画的な施設保守・営繕の検討・実施
年間スケジュールに沿って施設の各種保守点検を実施。保有車両については購入後10年経過、走行距離10万キロを超えた車両を対象に、来年度・再来年度に分け可能な限り助成金を充てた購入計画を立案した。ランサムウェア対策のため、サーバー強化を実施、Wi-Fi環境のトラブルに対応できるよう保守契約を締結した。

- (4) 業務効率化とコストダウン施策の検討・実施
業務改善とペーパーレス化を検討し、年度更新書類（ボランティア登録）について一部オンライン上のシステムを利用し、効率化を図った。ボランティア保険の加入手続きについて、業務効率化とコロナ感染拡大防止の観点より個々での加入を推奨した。

- (5) 労働環境の整備と法令の遵守
職員の実状に即し、給与規程の諸手当の見直しを行った。今後に向け職員の働きやすさの実現のためフレックス制度導入等の検討を始めた。

- (6) 目標設定・人事評価システムの活用
昨年より導入の目標設定・評価システムについて、今年度はさらなる目標設定の改善に向けて職員への説明、評価結果を昇給や賞与査定へ連動させるべく管理職研修を実施した。

9. 人材育成・研修

- (1) 訓練技術向上
 - ① 訓練士の育成
訓練担当者へのOJTの他、合同訓練の見学の機会を与え、目指すゴールの共有化を図った。
 - ② 研修生の募集
新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、募集は行わなかった。
新たな人材育成の体制について検討を行い、「介助犬について知ろう！オンラインセミナー2022」の実施計画に沿って進めた。

- (2) 以下の研修に参加した。
 - ① 国立障害者リハビリテーションセンター主催 訓練者研修に参加した。
 - ② Career Dogs Australia / Lauren Elgie氏より、繁殖・パピー育成プログラムについてコンサルティングを受けた。
 - ③ Ultimate Dog Training Japan / Marina Rodriguez氏のトレーニング研修を開

始した。

- ④ 広報活動に必要な技術向上のため、オンラインセミナーへ参加した。

10. その他

- (1) 名古屋市総合リハビリテーションセンターへ介助犬認定審査相談員として役員1名、認定審査委員として職員1名、兵庫県立総合リハビリテーションセンターへ認定審査員として職員1名を派遣した。
- (2) 名古屋市動物愛護推進員として職員2名を派遣した。
- (3) 社会福祉法人愛知たいようの杜と介護サービス利用に関して出向契約書を締結した。
- (4) 国土交通省 鉄道局交通政策審議会専門委員として役員1名を派遣した。